

2025 年 5 月 4 日（日）主日朝礼拝説教

『二人の目は開け』井上隆晶牧師
ルカによる福音書 24 章 13～17 節、25～35 節

①【聖霊によって聖書を読むこと】

イエス様が復活した日、二人の弟子がエルサレムを後にして、エマオという村に向かって旅をしていました。エマオはエルサレムから西へ約 11 キロ離れたところにある村です。弟子の名前は、クレオパとこの福音書を書いたルカだと言われています。彼らがなぜエマオに向かったのかは分かりません。でも西というのは日が沈む方向ですから、何か寂しい感じがします。キリスト教では教会は東に向かって建てられました。義の太陽であるキリストを仰ぎなさいという意味です。西は東に背を向けた方向ですから、キリストに背を向けて旅立ったことが分かります。そこへイエス様が旅人の姿で近寄ってきて彼らと一緒に歩き始めたのですが、彼らの目は遮られていてイエス様だとは分かりません。イエス様は「歩きながらやり取りしているその話は何のことですか」（17 節）と聞くと、二人は暗い顔をして立ち止まり、イエス様が殺されてしまったこと、三日目に墓に遺体が無かったこと、天使が現れ「イエス様は生きている」と言ったことなどを話しました。彼らの言葉には「この方は…力のある預言者でした」（19）「望みをかけていました」（21）とすべて過去形になっています。ああもうすべてが終わった、望みは失われたという嘆きが伝わってきます。希望を失うと人は暗くなるのです。

するとイエス様は弟子たちに「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか」といわれ、「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを説明され」（25～27 節）しました。「モーセとすべての預言者」というのは、旧約聖書のことです。つまり旧約聖書全体からメシアについて書かれている箇所を取り上げ、メシアは苦しみを受けて栄光に入ると書いてあり、その通りになったのではないかと説明されたのです。イエス様の聖書解釈、説教です。それを聞いて二人の心は熱くなり、希望が出て来ました。後でその時のことを振り返り「聖書を説明して下さったとき、私たちの心は燃えていたではないか」（24：32）と語り合っています。

●先週、礼拝において下さった N 牧師が「ああ楽しかった。イエス様がとても近くに感じた。お話が腑に落ちた。また、皆さんの顔を見ていると嬉しそうだった。」と語っておられました。聖書の言葉の意味が分かった時は「ああそうだったんだ」と全てが繋がって納得し、希望が出て来て嬉しくなり、心がワクワクしてくるのです。説教を聞いて心が熱くなり、喜びが出てくるのが大事なのです。

昔の教父たちは「私たちは似た者によって似た者を知るのです。」と良く言いまし

た。神から出た言葉は、同じ神でなければ分からないという意味です。だから聖書の言葉は、それを語ったイエス様自身でなければ分からないのです。では現代の私たちはどうしたら聖書が分かるのでしょうか。それは祈って聖霊を受ける事です。イエス様自身がはっきりこう言われました。「その方、すなわち真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」(ヨハネ 16 : 13)

●カルロ・カレットという人はこう書いています。「これこそ祈らない神学者たちのことを私が信じない理由である。彼らは神との愛の、そして謙遜な交わりの中にいないからである。」また、スタンレー・ジョーンズはこう書いています。「もしも私に一つの賜物があり、そのただ一つの賜物をキリストの教会に贈るとすれば、私は祈りの賜物をささげたいと思う。なぜなら、すべてのものは、祈りから生じるからである。祈りは生活全体を高めるものである。実際の経験から、私が多く祈るか少しだけ祈るかで、私は良くも悪くもなることが分かった。祈りの生活がだらけると、それにつれて私の生活全体もだらけてしまう。祈りの生活が上向くと、それにつれて、私の生活全体も上向くのである。ここで失敗すれば、すべて失敗に終わるし、そこで成功すればどこにおいても成功するのである。」

私は現代の神学者といわれる人の論文を多く読みましたが、ほとんど役に立ちません。学者といわれる者は今も昔も同じです。修道生活をしている人の書いたものが本物の神学(英知)だと思います。祈祷書はその神学の宝庫です。でも現代の学者は祈祷書の研究はしても、それで祈りません。聖書は、聖霊を持っている教師が手引きしなければなりません。同じ聖書を読んでも、聖霊を持っていない教師が手引きすると、とんでもない解釈をします(カルトがそう、それ以外でも)。聖霊を持たない教師が神のことを語る時、それを信じてはいけません。私は今の牧師や教会は祈らないと思います。だから説教に力がなく、何を言っているのか分からないのです。だから人の中に入らないし、心が熱くならないのです。聖霊を持っている人は時代を越えて同じ匂いがします。教会に何か危機がある時にはいつも、祈りの危機の時です。

②【イエス様の聖餐式によって目が開く】

やがて彼らは目的の村につきますが、イエス様は「先へ行こうとされる様子だった」(ルカ 24 : 28)と書かれています。イエス様の目的地は、彼らの目的地とは違っていたということです。的をはずすことは罪です。そこで二人は「一緒にお泊りください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」(29節)といって無理に引き止めました。ここには「一緒に」「共に」「泊まる」という言葉が繰り返されています。イエス様は、ある所まで来ると、あなたの意志を求められます。あなたが「共にいてほしい」と願えば共にいてくださいますが、あなたが求めなければ前に進んで行ってしまわれます。さて夕食の時のことです。「一緒に食事の席に着いた時、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂い

てお渡しになった。すると二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。」(30～31 節)とあります。「パンを取り、賛美の祈りを唱え、裂き、渡す」この四つの動作は聖餐式と同じです。聖餐によって彼らの目が開きます。説教だけではまだ目が開きませんが、聖餐式まで来て目が開きます。この二つが礼拝には必要なのです。私はいつも聖餐式でパンとぶどう酒をいただいた後に、その日の説教で一番言いたかったことが分かります。彼らの目が開くと、イエス様の姿は見えなくなりました。見えなくなったということは「見えなくても良い、その必要はない」ということです。

③【本当に主は復活なされた】

彼らはすぐにエルサレムに引き返します。西から東へ向きを変えます。つまり神の都へと U ターンします。それは彼らが再び信仰の旅を始めたことを現しています。説教と聖餐という礼拝には人生を U ターンさせる力があります。地へ落ちてゆく私たちを、天へ引き上げる力があります。エルサレムに帰ると、そこには 11 人の使徒と仲間たちの群れが待っていました。これは教会のひな形です。彼らは「本当に主は復活して、シモンに現れた」(34 節)と証しをしていました。これが東方教会(古代教会)の復活祭の挨拶になってゆきます。「キリストは復活された!」「本当に(実に)主は復活された!」という挨拶です。

私は今回、ここを読んで気づいたことがあります。旅人は聖書の説明はしますが、自分がイエスだとは言っていない。晩餐の時にも客は自分がイエスだと言っていない。イエス様は何も証していないのです。弟子たちはイエス様が「私だ」と証したから目が開いたのではありません。弟子たちは、説教と聖餐によって目が開いたのです。説教と聖餐がイエス様を証しているということです。別な言い方をしたら、説教と聖餐の中にキリストはおられ、姿を現すということです。説教と聖餐によってイエス様は私と共におられるのが見えてくるということです。

「本当に主は復活された」とは、主は今も生きていて、働いておられるということです。ではどこにおられ、どこで働かれるのか?それは皆さんの中におられ、皆さんを通して働かれるのです。その昔はマリアから取った肉体を通してその時代に姿を現し、働かれました。その後は、すべての時代に、すべてのキリスト教徒の肉体を通して働いておられるのです。今の時代に働くために、主は皆さんの体が必要なのです。だから主は受肉して皆さんの中に共におられます。ただキリストの言葉を行う人に現れます。なぜならキリストの言葉を行う人は、キリストと同じ行動をしているから姿が現れるのです。聞くだけの人はキリストを土に埋める人ですから姿は現れません。例えば「主は牢にいる人を尋ねよ」と言われました。それに従う時、私の内にいるキリストが働き、必要な言葉を語るのです。すると相手が変わるのです。マルコにあるような信じる者のしるしが現れるのです。私が説教する時には、私の中のキリストと聖霊が私の口を通して語ります。聖餐の時、司式しているのは私の中のキリストなのです。だから聖パンになるの

です。キリスト教徒とキリストとは夫婦の様に永遠の絆で結ばれており、徐々にあの方に私たちは似てくるのです。同じ根をもっていなければ似た実を結ぶことは不可能です。ああ、キリスト教徒は何と祝福された者なのでしょう。この神秘を知った者、実践する者は何と幸いでしょう。私はそれを皆さんに知ってもらいたいです。主はあなたの中におられます。その主を見たくありませんか？主と交わりなさい。神の言葉を聞き、祈って聖霊をもらいなさい。み言葉を実践しなさい。するとあなたはキリストがあなたと共にいることに目が開くでしょう。祈りの生活を大切にしてください。